

やってほしいこと

1. 初見の精読を毎日行う（1日3~5題）

→①構造を間違いなく理解すること、および②英文の「意味」を正確に把握することが訓練の目的である。

* しっかりと「意味」が分かってから訳を書いて、解説を読む（時間のほとんどは「考える」という過程に割かれるべき）。

* 「解釈の技術」の一部意味不明な説明は気にしない（大切なことは「構造」を自分で理解すること）。

2. 復習をする。

→①今度は「前から」読んで「意味」を把握する訓練をする（「精読」の技術を利用しつつ、ほかの訓練を行う）。

②「精読」の際に掴んだ構造を意識しながら読む（これをしなければ意味がない）。

③「前から」ということに拘泥しすぎることはないが、なるべく「二度読み」をしないようにする。

④最終目標は日本語にしなくても英文の「意味」が前から分かるようになること。

⇒すさまじい回数を訓練しないと達成できない。

⑤復習を兼ねた「前から読む」ためのこの訓練もまた、必ず毎日行う。

⑥1日に最低でも50英文は読む（1度「精読」をしたものなので、これぐらいできる）。

⇒速単などの短・中文を含めて50英文としてよい。

⑦前から読めないものは再び「精読」を試み、解説を見る。（終えてからまた「前から」読んでみる）。

3. 毎日長文を前から読む (1日50題)

→①「精読」と同じように初めに構造をとる (書き出さなくても良いが、頭の中で正確に行う)。

②構造を理解したうえで「和訳」を試みる (わからない単語は調べる前に文脈から推測する。これもまた訓練である)。

③精読と同様に日本語にしなくても英文の「意味」が前から分かるようになること。

4. 英単語 (1日500単語)

→①“意味”を覚える (文字の羅列として覚えてはいけない。Ex) apple=🍏)。

②書くのをやめる (音ベースの英単語を書いても意味がない。脳に刷り込まれるぐらいに見る)。

③赤シートは使わない (①と繋がりあり。瞬時に単語の「意味」を分かる人は、赤シートの存在意義がないことがわかる)。

⇒英語から日本語だけではなく、日本語から英語も行う。

④音声化する (音はスペリングのヒントになる。この時アクセントも一緒に覚えるとのちに楽になる)。

⑤コアを覚える (赤文字のこと。①と矛盾しているように思えるが幹となる「日本語」は必要)。

(⑥法則を理解する。)

⑦500単語を1日のうちに何周もする。

⇒何周すればよいかと思うだろうが、上限はない。刷り込まれるまでやる (1時間に1回10分を目標に)。

* 1日に500単語は無謀に思われるが、この方法なら1単語数秒で終わるので10分で100単語ほど見られる。

2000単語 (1冊分) を4日間で1周できるため、記憶定着の面から考えても良いとわかる。